



町民文芸

只見短歌会 二月詠草

大塚栄一 指導

馬場 八智

吹雪く日はテレビを頼りに過ぎて来ぬやがての農に思ひ馳せつつ

小倉キミ子

深ぶかと積もりし雪に寝転べば沢音消へて空のみ見ゆる

渡部ゆき子

成人式の衣装に見蕩れわが時期は振袖などは知らず過ぎて来し

目黒 富子

拾ひ手と蒔き手となりて老二人節分の夜に賑ひのなし

新国由紀子

子を持たぬ従姉の誕生会に幼孫折り紙買ひ来て紙吹雪撒く

関谷登美子

久々に快晴となり雲間より雪原照らす日光ひかりに和む

渡部ヨリ子

節分に子供等の声聞かれぬも豆を煎りをり習慣なれば

飯島小百合

雪地より故郷へ帰れば暖かく梅の花咲き心がはずむ

新国 洋子

出窓より真正面の只見富士冬晴れの空に輝きて立つ

(出詠順)

只見俳句会 三月定例会

目黒十一 指導

吉 児

行合の夜空切り裂く流れ星

白雪を黄に染みにけり蒙古風

幸 生

寒月にすべて削がれて峰独り

凍て道や眉に結露の友と逢う

信

この頃はわが師の恩なき卒業式

春来る涙と笑顔の銅メダル

都

ぎっしりと錠剤箱に余寒かな

青痣の点滴痕や春浅し

洋 子

水に石投じて空は春めきぬ

しなやかな猫の姿態の日永かな

味代子

床上げに一杯のお茶春なけば

深呼吸すーとなじむ春の風

弘 子

三・一一献花の浜に涅槃雪

雪吊りを解かれし松に忘れ雪

礼

春北斗声あらば声知らしめよ

獣道の溜池止り雨水かな

一 穂

霏ほやその上に又雪の嵩

馬鈴薯もろこし並べ芽出し促す春の陽よ

修 一

会う人に話しかけたや木の芽時

雪晴れや村の人影少し増え

